

市民助け合いネット

仲間通信

【第30号】

発行

NPO法人
市民助け合いネット

代表 片岡 興一

〒270-0121 流山市若葉台3-131

☎ 04-7153-5733

平成27年5月末現在

私たちの仲間

総数 1088名

内訳

提供会員 424名

利用会員 664名



ふれあいの家「えがお」ではじめて開催した社員総会

平成二十六年年度社員総会開催・新役員体制スタート！ 地域一体の助け合いのまちを目指して

新役員紹介

役名	氏名
理事代表	片岡 興一
理事副代表	弘田 娃子
理事副代表	鎌倉 常雄
理事	朝妻 俊和
理事	木村 正夫
理事	徳永 基
理事	永塚 治夫
理事	森 光雄
理事	前田 貞光
理事	高田 吉治
理事	新井 麗子
監事	池上 諄一
監事	辰巳 哲

会を支えていただいた
前役員の方々に感謝！

理事代表
片岡 興一

「市民助け合いネット」では、去る五月十六日(土)に、ふれあいの家「えがお」に於いて「社員総会」を開催しました。NPOの社員総会は、株式会社株主総会に当たるもので、表決権を持っている社員が年一回、通常総会を開くことになっています。総会では、平成二十六年年度事業報告と決算報告、平成二十七年年度の事業計画と予算計画および二年毎の役員改選が審議され、各議案とも満場一致で承認されました。

今年四月の介護保険改正を受けて、地域包括ケアシステムがスタートしました。自治会をはじめとする地域が一体となって高齢者・障がい者を支える仕組み作りが求められます。私たち市民助け合いネットは、地域包括ケアシステムの中心的な役割を担い、「地域一体の助け合いのまち」を目指します。

以下に、総会で報告された平成二十六年年度の活動の概要を掲載します。

平成26年度の助け合い活動の実績

活動区分	実績(件)
・外出支援(自動車の送迎)	2,524
・外出支援(院内介護)	631
・家事支援	1,489
・庭の手入れ	278
・犬の散歩	164
・その他	309
合計	5,395

平成26年度・貸借対照表

科目	金額(千円)
流動資産	15,755
固定資産	24,915
資産合計	40,670
流動負債	10,730
正味財産	29,940
負債・正味財産合計	40,670

平成26年度・損益計算書 (H26.4.1～H27.3.31)

科目	金額(千円)
収入	
会費収入	120
事業収入	69,025
寄付金収入	412
その他収入	1,778
収入合計	71,335
支出	
事業費	60,557
管理費	7,911
支出合計	68,468
当期経常利益	2,867
法人税等	1,994
当期税引き後損益	873
前期繰越損益	29,067
次期繰越損益	29,940

私たち市民助け合いネットは、この五月十六日の社員総会を起点に、新たな活動のスタートを切りました。

市民助け合いネットは、昨年三月で創立一〇周年の節目を迎え、一〇周年記念誌発行や記念祝賀会を皆さまと共に盛大に執り行うことが出来ました。

振り返れば、一〇年前、国の介護保険制度に限界を感じ、介護保険に頼ら

ない独自の高齢者生活支援のための活動組織を作ろうと立ち上げたのが、市民助け合いネットでした。

あの時、NPO法人立ち上げに共感して協力してくれた仲間、まだまだ働き盛りの現役も多く、助け合い活動に時間を割くのも大変だったと思いますが、手弁当で、会員募集のチラシ作りから入会呼びかけなど、立ち上げ時の大変な時期に尽力してくれました。

まさに同じ釜の飯を食った戦友ともいえる、かけがえのない仲間です。

今回、一〇年の節目に合わせ、これからの難しい会の運営を新しい仲間

託しましたが、創立当初から役員として頑張ってくれた理事の伊藤祐介氏、井久保説男氏、太田悟夫氏、小木曾凱一氏、龍田進氏、田中博氏、前田祥三氏、監事の大脇順敬氏、小林哲夫氏に心から感謝申し上げます。

私自身、昨年、病に臥し、以前のように全力で会を牽引することが出来ないので、次の時代に引き継ぐ役目を果たすため、もうしばらく会に席を置きますが、新しい役員の方には会発展の牽引役として期待したいと思っています。

会創立から一〇年後の現在、あの時、予見した介護保険の限界が、まさに国の政策変更となって、私たちの身近な課題として現実化しました。

地域包括ケアシステムという自治会、隣近所をはじめとする地域全体で高齢者・障がい者を支え合う制度に移行しました。制度が変わっただけで、地域への仕組みの定着はこれからです。

市民助け合いネットは、この制度が機能する仕組み作りの中心的な役割を担い「地域一体の助け合いのまち」の実現にまい進していきます。

会員各位の益々のご協力をお願いします。

次第です。

助け合い活動

当会の本来事業である「助け合い活動」は、介護保険制度改正による生活支援が縮小している中で、平成二十六年度は、約五四〇〇件のサービス利用があり、ご高齢の方に変感謝されています。地域の高齢者の方、安心して暮らすために無くてはならない活動になっています。

生活支援のための 会員増員が不可欠

これからの新しい介護サービスは、地域包括ケアシステムという自治会をはじめ地域全体で支える仕組みに移行しています。生活支援の要請は益々増えており、要請に応じていくためには、サービスを提供する会員の確保が欠かせません。当会では、昨年七月にオープンした、ふれあいの家「えがお」の活動を中心に会員募集に努め、二十六年度も毎月一〇人前後の入会がありました。しかしながら、サービス提供会員の入会が少なく、引き続き提供会員増員の努力が必要です。年度末の会員数は、年間八十二人増の千七百七十二人(利用者六四九人、提供者四二三人)となっています。

年々増加する 助け合いの活動実績

「助け合い活動」は、平成二十六年度実績で、昨年と略同じ件数で推移しており、その内、外出支援が五十九%を占め、利用会員の増加により病院をはじめとする外出支援サービスの要請が増えています。

ふれあい活動

これまで「ふれあいサロン」は二つの公民館と自治会で開催していましたが昨年七月にオープンしたふれあいの家「えがお」に活動の中心を移し「いつまでも元気で暮らすシニアづくり」を目指し取り組んでいます。二十六年度は、二つの公民館と合わせ四六八一人の方の参加がありました。

地域の「居場所・憩いの場」 として利用されています。

ふれあいの家「えがお」は七月のオープン以来、市内および近隣で音

健康麻雀



健康体操



主な催し物の紹介



「えがお寄席」
父娘三味線・民謡



楽、落語・演芸などのサークル活動を主催している方や健康体操の指導員の皆さん方の協力を得て、気楽に楽しんでいただけるイベントを催してきました。

また、囲碁・将棋・麻雀や絵手書教室など趣味の集まりに「えがお」を提供しています。

今まで興味があっても、なかなか参加するまでに至らなかった方、囲碁・麻雀を覚えたいのにその機会がなかった方に大変喜ばれています。ふれあいの家「えがお」はオープン十一ヶ月で三三〇〇人を超える方の利用がありました。

行政からの受託事業

「市民助け合いネット」では「助け合い活動」「元氣シニアづくり」事業の他に、行政と市民との協働化の一環で流山市に協力するとともに、当会の活動を健全かつ、継続させることにつながる次の事業を受託しています。

二つの公民館の管理運営

当会では、「初石公民館」「南流山センター」の二つの公民館の管理運営業務を指定管理者として担っています。

この七年間、市直営では、気づかない部分を市民目線で改善に務め、「安心して快適で更に使いやすい」公民館を目指し、利用者の方から高い評価を受けています。二十六年度の両館の利用者数は、約二十二万人を超えました。

市民活動推進センターの管理運営

平成二〇年度から業務を受託し、市民活動を「生み」「育てる」ことを目的に、各種の教育・支援活動を行っています。

平成二十六年度は、一万七千人を超える参加者がありました。

また、市民の埋もれた知識・経験や技能を地域活動、NPO活動に役立てるため「人材バンク」の運営も行っています。

高齢者外出支援

流山市の福祉政策に協力して市内の生活困窮者の方や外出が困難な方などに対して自動車での外出を支援する、福祉有償運送事業を四四名の提供会員の皆さんの協力を得て展開しています。

平成二十六年度は延べ四七四人の方を支援しました。

交通安全教室の開催

市内の保育園、幼稚園の園児と小学校の生徒延べ一八八一人に対して「道路の正しい歩き方・横断道路の渡り方」や「自転車の正しい乗り方」などを指導する「交通安全教室」を現地に赴いて開催しました。

ロードレース大会の運営

平成二十六年度も流山市より「第二十三回流山ロードレース大会」の企画運営業務を受託し、事故なく無

事務所からのお知らせ

●助け合い活動

1. お盆休み(8月13、14、15日)は、活動を休みます。
2. 8月の草刈り、剪定の依頼は、避けてください。
3. 草刈り、剪定のできる方、ご一報ください。

●ふれあいの家「えがお」

1. 7月より、囲碁・将棋、健康麻雀は、入館料の他にゲーム代として100円を申し受けます。
2. 健康麻雀のマナー、ルールを決めました。



事、大会を成功裡に終えることが出来ました。

大会エントリーは、四〇三九人(市外からの参加者七十%)、当日完走者三四七二人のランナーが流山市内を駆け抜けました。